

# 夜須高原

## 『ESD・SDGsの学び』ガイド

～ 学校団体用「ダイジェスト版」～

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家 2020

## 1. ESDと学校教育

### ◆ ESDについて



ESD = Education for Sustainable Development  
= 持続可能な開発のための教育

ESDとは、「①人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等、人類の開発活動に起因する②現代社会における様々な問題を、各人が自らの問題として主体的に捉え、身近なところから取り組むことで、それらの③問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、もって持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動です。」（『ESD 国内実施計画』H28より抜粋）

※下線：夜須

新学習指導要領にも ESD に通じる文章が盛り込まれているよ！各学校で取組んでいくべき法的根拠にもなっているね。

### ESDと新学習指導要領（H29・30版）

#### 【前文】

これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の児童（生徒）が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。

## 【第1章 総則】

第1 小学校（中学校）教育の基本と教育課程の役割 3 2の（1）から（3）までに掲げる事項の実現を図り、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される児童（生徒）に、生きる力を育むことを目指すに当たっては、学校教育全体並びに各教科、道徳科、…総合的な学習の時間及び特別活動…の指導を通して、どのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしなが、教育活動の充実を図るものとする。

# 2. SDGs と ESD

## ◇ SDGsについて

SDGs = Sustainable Development Goals  
= 持続可能な開発目標

SDGsとは、「2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。」（総務省HPより）

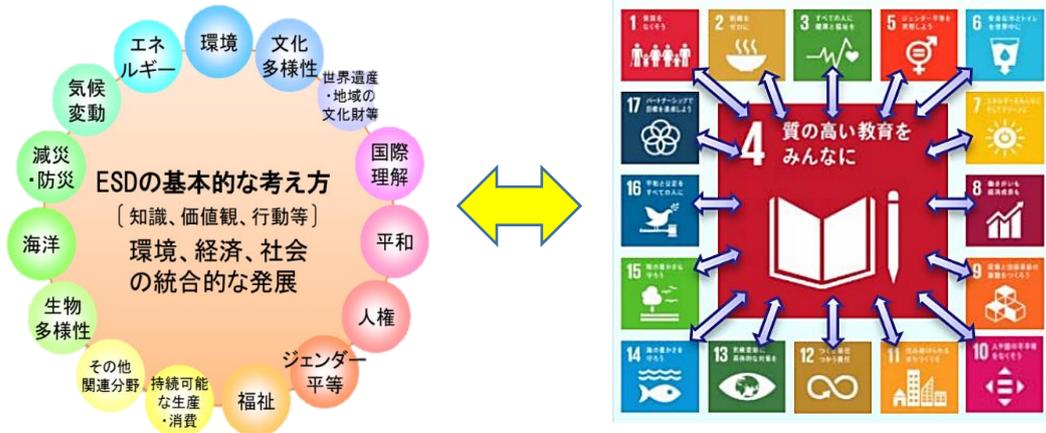
SDGsとESDの関係性が分かりにくいかもしれないね。  
日本ユネスコ国内委員会から、学校等でESDを推進している方々へのメッセージの中に、次のような説明がされているよ！



教育はSDGsの目標4に位置付けられており、ESDは目標4の中のターゲット4.7に記載されています。しかし、教育については、「教育が全てのSDGsの基礎」であり、「全てのSDGsが教育に期待」している、とも言われています。特に、ESDは持続可能な社会の担い手づくりを通じて、17全ての目標の達成に貢献するものです。ですから、ESDをより一層推進することが、SDGsの達成に直接・間接につながっています。また、SDGsを、ESDで目指す目標が国際的に整理されたものとして捉えることもできます。

<[http://www.esd-jpnatcom.mext.go.jp/about/pdf/message\\_01.pdf](http://www.esd-jpnatcom.mext.go.jp/about/pdf/message_01.pdf)> 2020/6/1 参照

この点について、同委員会は下図のように全てのSDGsの中心に「教育」を据えて、ESDの新たな価値付けをしているよ！



\* 『ESD（持続可能な開発のための教育）推進の手引 H30』 日本ユネスコ国内委員会より抜粋

# 3. 施設で行う ESD・SDGs



施設が「自然の家」という環境立地の特性から、ここではテーマを“環境学習”にしてESDの活動を例示しているよ。

## ◆ 学校のESDに施設利用を位置づける場合



\* 参考『ESD 環境教育モデルプログラムガイドブック②』 環境省 H26

- 《実施例》
- ★ 1 夜須高原の自然に親しむ。／生物の多様性に気づく。
  - ★ 2 学校で見つけた課題を踏まえて、夜須高原の自然の中で調査・確認する。
  - ★ 3 夜須高原で環境保全活動を実践する。／朝・夕のつどい時の団体紹介で発表する。

## ◆ 施設での活動全体を ESD でデザインする場合

1 日目

2 日目

つかむ

調べる

まとめる

発信・行動する

ここでは、学校での ESD 活動に関係なく、施設利用（宿泊活動）そのものを ESD の視点から捉え、入所時から退所時までを ESD 活動として完結させるモデルの提案になります。

## ◆ 施設での様々な生活を SDGs で意識化する場合

様々な暮らしの場面にも直結している SDGs を、施設で体験する教育的な機会として改めて捉え直してみてもいいでしょうか。施設での生活そのものが SDGs です。

右表は、『夜須高原せいかつ 7つのアクションガイド』です。

入所オリエンテーションの際、施設からのお願いとして伝えていたことを、SDGs の視点から再構成してみました。



## ◆ 活動プログラムの中に SDGs の視点を入れる場合

プログラムの1コマで…

SDGs の目標を念頭にして体験活動を企画・実施する。出発前に活動の目的を伝え、意識化を図る。

テーマを設定する

体験する

ふりかえる

活動後に、様々な感想や気づきを出し合い、個人や集団の考えを深める。今後自身の興味・関心や集団としての活動につなげていきたいかを全員で確認する。(SDGs の目標につながっていることを伝え、意欲付ける。)

実際の施設利用においては、全行程を ESD で実践することは難しいかもしれません。ここでは、学校が行う活動プログラムの一つに、SDGs の視点を入れた活動を提案しています。

# 4. ESD プログラム化の実際

## ◇ 施設にある活動プログラムでの実施例

例えば、活動の目標を「自然環境の多様性を知ることにより、好奇心や探究心を育む」「自然体験をとおして保全活動への関心をもつ」の2つ設定した場合、ESDの視点として「ESDの要素」（下表）の「多様性」「責任性」が該当しそうです。

本プログラムで想定される ESD の要素（構成概念）に対する内容例			
人を取り巻く環境に関する概念		人の意志や行動に関する概念	
<b>多様性</b>	自然に親しみ、自然の中では様々な生き物が生息し自然界が成り立っていることに気づく。	<b>公平性</b>	誰もが自然を享受できるようにするために、自然に対してどのように行動すればよいか考える。
<b>相互性</b>	豊かな自然がなかった場合、私たちの暮らしはどうなっているかを思いやる。生き物と人間が共に暮らしていることに気づく。	<b>連携性</b>	自然を大切にしている活動や行動をしている人・グループがあって自然が守られていることを考える。
<b>有限性</b>	自然が損なわれると、元通りには戻らない場合や再生するまでに時間がかかることを知る。	<b>責任性</b>	豊かな自然を守るために、自分やみんなでできることはないかを考える。（普段の生活でできることはないか。）

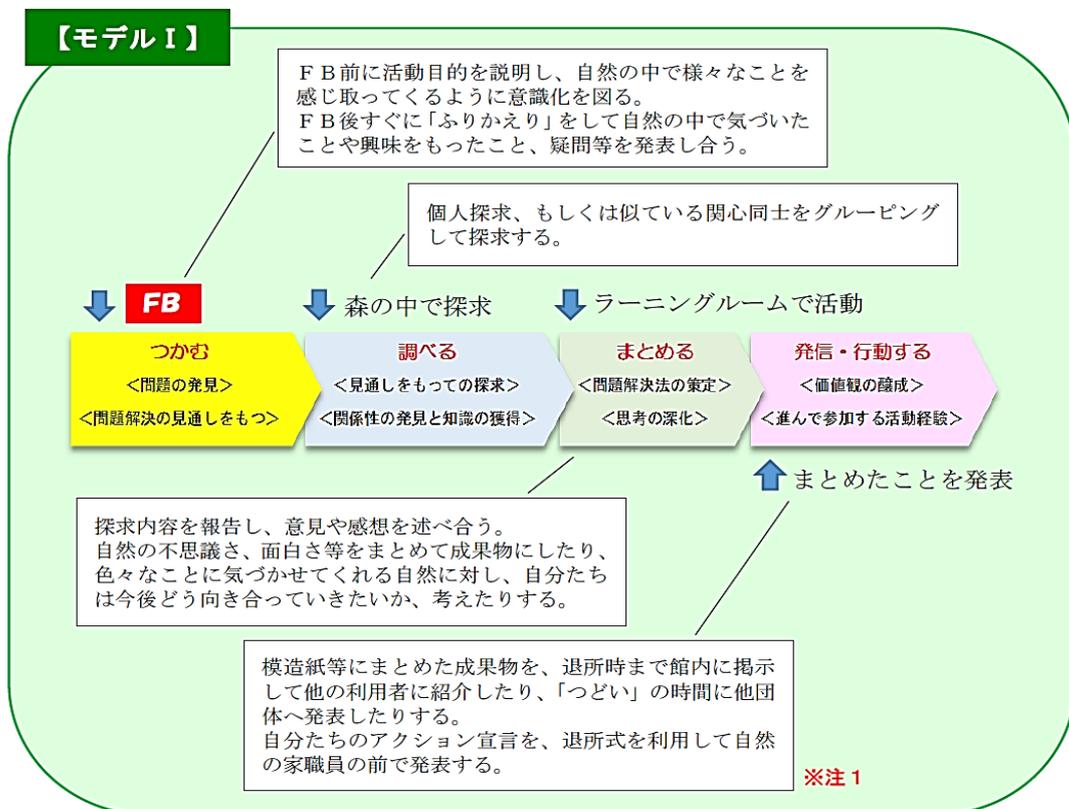
次に、目標達成に向けて育みたい力・態度を「多様性を知る」「好奇心や探究心」「保全活動への関心」に照らした場合、次表の例示を参考にすると「**①**批判的に考える力」「**③**多面的、総合的に考える力」「**⑥**つながりを尊重する態度」がうまく当てはまりそうです。

本プログラムで想定される ESD の能力・態度と内容例	
<b>批判</b>	<b>①</b> 批判的に考える力
	○自然の中で気づいたことや疑問に感じたことについて、なぜそうなっているのかを考えたり調べたりして検討することができる。 ○自分は自然とどう向き合ってきたか、これまでに自然を痛めてしまうような行為はなかったか省察する。
<b>未来</b>	<b>②</b> 未来像を予測して計画を立てる
	○自分たちの考えや行為が今のまま続いた場合、どのような自然や社会になってしまうのか思いやることができる。 ○夜須高原の自然や自分たちが住む身近な自然が、将来どうあって欲しいかを現状を踏まえて想像することができる。
<b>多面</b>	<b>③</b> 多面的、総合的に考える力
	○木や葉がなぜこの環境で生息しているのか、なぜそのような姿・形になっているのか自然の様々な状況から推測する。 ○森の中に通り道（人道）をつくるのは必要かどうか、様々な人・もの・ことを切り口にして考えてみるることができる。

	<b>④コミュニケーションを行う力</b>
<b>伝達</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分が感じた自然の豊かさや不思議さ、自然破壊の様子についてみんなに伝え、他者の感想や意見をもとにさらに深めていくことができる。</li> <li>○お互いに考えや意見を述べ合い、課題をみんなで解決していくことができる。</li> </ul>
	<b>⑤他者と協力する態度</b>
<b>協力</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○豊かな自然を守るために、みんなのできることはないかを考える。(普段の生活でできることはないか。)</li> <li>○自然の中でお互いに安全に気を配り、支え合ってグループ行動ができる。</li> </ul>
	<b>⑥つながりを尊重する態度</b>
<b>関連</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自然を大事にすることによって、どのような人々にどんな恩恵をもたらすことができるのか考えてみる。</li> <li>○自分の周りで環境を大切にしている人や活動、地域行事等がないか関連付けて考えることができる。</li> </ul>
	<b>⑦進んで参加する態度</b>
<b>参加</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自然保護に対し、自分にできることはないかを考え、行動することができる。</li> <li>○所属する集団以外の人々に自然保護や環境問題を伝え、一緒に考えたり行動したりできる。</li> </ul>

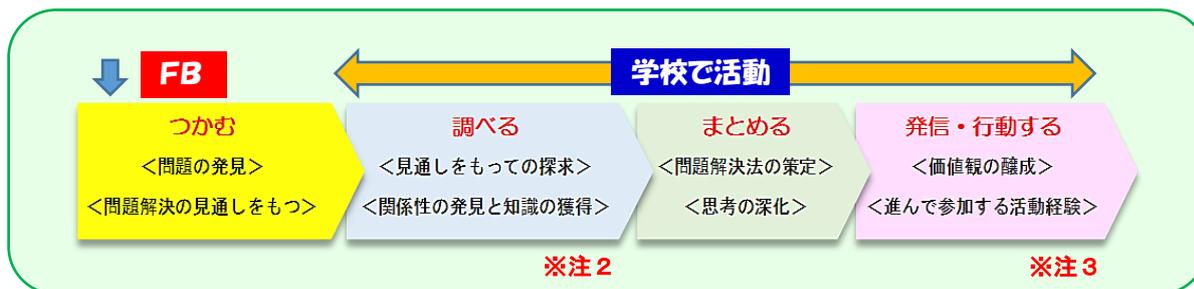
すなわち、ESDの学びとして活動設計ができそうです。そして、これらを基に施設の活動プログラム一番人気の「フィールドビンゴ」(以下、FB)を取り入れてみることにします。

ESDのテーブルに則って実施する場合は、FBをどの場面で組み込むかが次の作業になります。



**注1** 館内で掲示発表を希望される場合や「つどい」での団体紹介の時間を利用して発表される場合は、事前にご相談ください。当日の団体数等によっては、十分な時間が確保できないこともあります。

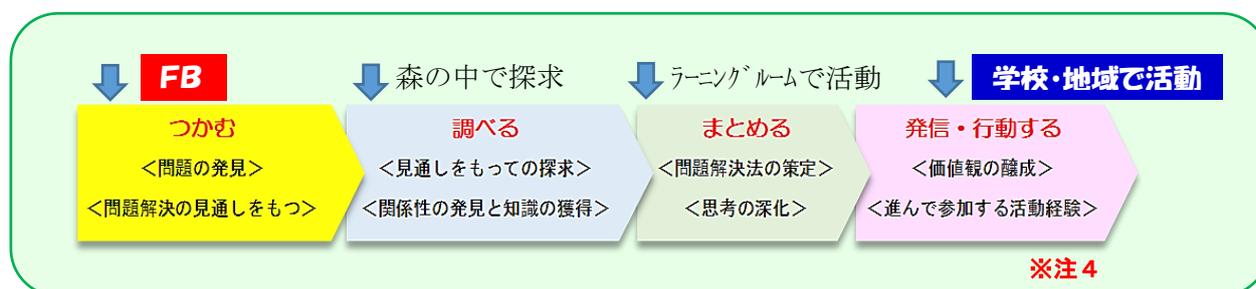
【モデルⅡ】 … 導入的な活動を施設で行い、その後の活動は学校に戻って展開



注2 施設周辺の自然と住んでいる地域の自然とを比較すると、「教材のつながり」になります。

注3 地域の方々と環境保全活動（美化活動等）と結びつくと、「人のつながり」になります。

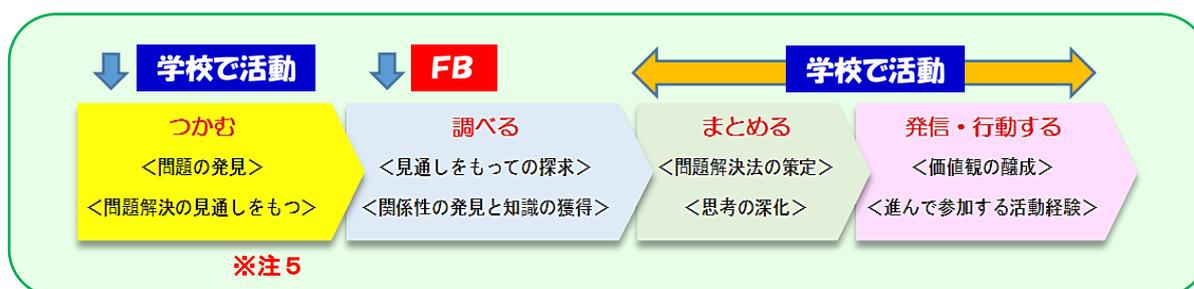
【モデルⅢ】 … 活動の「まとめ」までを施設で行い、その後の実践は学校・地域で展開



注4 施設で得られた知見を基に、学校・地域での活動に発展させていきます。

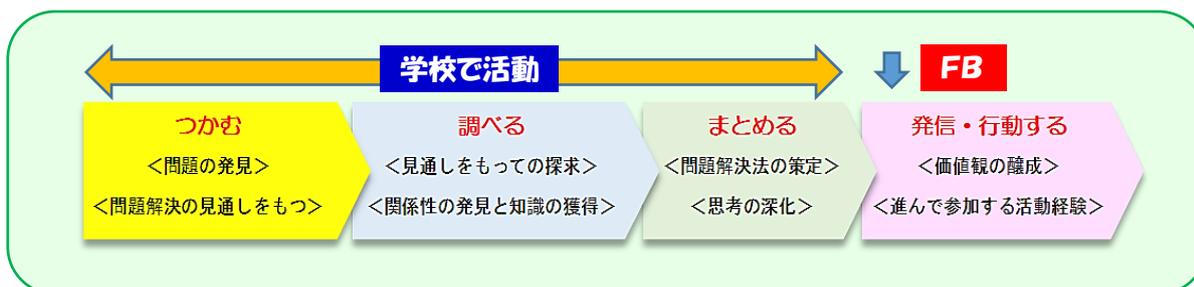
施設での成果を退所後すぐに生かしたい場合は、例えばそのまま学校に戻った際に「解散式」で迎えに来た保護者や学校で待機していた教職員に伝える場面を設ける等、工夫ができそうです。または、直近の全校集会で他学年集団に成果を発表すると「人のつながり」になります。こうした活動により、SDGsが目指す「社会参加・変革」への一歩に結びつくことにもなります。

【モデルⅣ】 … 事前学習を学校でした後、施設で探求活動のみを実施



注5 事前学習により生じた個人あるいはグループの課題を、施設での活動に生かしていきます。

【モデルⅤ】 … （学習成果発表の場として）最終的な活動を施設で実施



※モデルⅤの注記とモデルⅥについては、全体版に掲載しています。

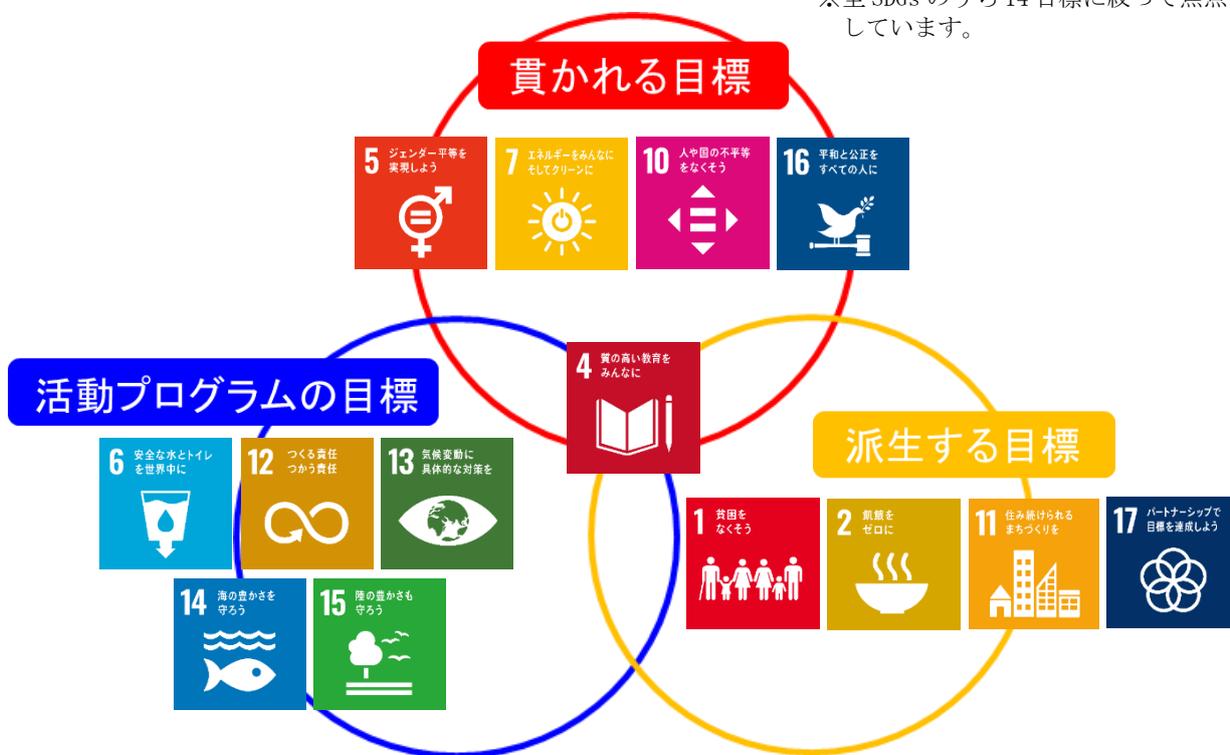
# 5. 施設プログラムとSDGs

## ◆ 施設で体験できるプログラム

施設の入所時から退所後まで様々な活動を ESD の視点から意識して見ていくと、一つ一つの行動や活動が SDGs の目標とつながっていることが分かります。施設で体験できる活動プログラムも、同様に活動内容に応じた SDGs を見出すことができます。

### ◎ 夜須高原での体験活動における SDGs の全体像〔夜須高原 ver.〕

※全 SDGs のうち 14 目標に絞って焦点化しています。



施設で体験活動を実施する際、想定できる SDGs を 14 目標に絞り込みました。そして、これらを 3 つに分類し整理（貫かれる目標・活動プログラムの目標・派生する目標）しました。

#### ■ 貫かれる目標

活動や生活全般での集団・グループ・個人として踏まえておくべき行動目標

#### ■ 活動プログラムの目標

施設にある活動プログラムの特性に応じた活動目標

#### ■ 派生する目標

上記 2 つの目標によって将来的につながりが期待できる未来目標

「**貫かれる目標**」は、施設利用者のあらゆる場面で共有すべき目標になります。前述した『夜須高原 SDGs せいかつ7つのアクションガイド』と併せて、実践して欲しい願いです。

「**活動プログラムの目標**」は、施設にある活動プログラムが持っている特色を踏まえて、想定される目標です。例えば、後述している「夜須高原で体験できる活動プログラム①②③」に対して、各々に適当と考えられる SDGs を施設から提案しています。

「**派生する目標**」は、上記2つの目標を通じて更に連鎖的・発展的な学びが期待され、夜須高原での学びが更なる学びを生む好循環が期待されています。

この3分類に通底する目標として SDGs 「4. 質の高い教育をみんなに」を捉え、全体の中心にしています。(実は、ESD については「SDGs ターゲット」の中にも明記されています。下表 4.7)

該当する SDGs ターゲット	
	<b>【目標4】</b> すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。
	4.7 2030年までに、 <b>持続可能な開発のための教育</b> 及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。  4.a <b>子供、障害及びジェンダーに配慮した教育施設を構築・改良</b> し、全ての人々に安全で非暴力的、包摂的、効果的な <b>学習環境を提供</b> できるようにする。

※SDGsには、全17目標に対してそれぞれターゲット(全169)が設けられています。

## ◎ 活動プログラムの目標

施設で体験できる活動プログラムには、以下の5つのSDGsと結びつけて実施ができそうです。ここでは、“自然の家”に置かれた環境特性から関連付けられるSDGsを選定し、活動のイメージがし易いように**敢えて目標を数点に絞って提示**しています。

該当する SDGs ターゲット	
	<b>【目標6】</b> すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する。
	6.3 2030年までに、汚染の減少、投棄の廃絶と有害な化学物・物質の放出の最小化、未処理の排水の割合半減及び再生利用と安全な再利用の世界的規模で大幅に増加させることにより、水質を改善する。  6.4 2030年までに、全セクターにおいて水利用の効率を大幅に改善し、淡水の持続可能な採取及び供給を確保し水不足に対処するとともに、水不足に悩む人々の数を大幅に減少させる。  6.6 2020年までに、山地、森林、湿地、河川、帯水層、湖沼を含む水に関連する生態系の保護・回復を行う。

	<p><b>【目標 12】</b> 持続可能な消費と生産のパターンを確保する。</p> <p>12.4 2020年までに、合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する。</p> <p>12.5 2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。</p>
	<p><b>【目標 13】</b> 気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る。</p> <p>13.1 全ての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靱性（レジリエンス）及び適応の能力を強化する。</p> <p>13.3 気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。</p>
	<p><b>【目標 14】</b> 海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する。</p> <p>14.1 2025年までに、海洋ごみや富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する。</p>
	<p><b>【目標 15】</b> 陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る。</p> <p>15.1 2020年までに、国際協定の下での義務に則って、森林、湿地、山地及び乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系及びそれらのサービスの保全、回復及び持続可能な利用を確保する。</p> <p>15.4 2030年までに持続可能な開発に不可欠な便益をもたらす山地生態系の能力を強化するため、生物多様性を含む山地生態系の保全を確実にする。</p>

提示されている各 SDGs は、施設活動における“レバレッジ・ポイント”（問題構造のツボ）を捉える際の例示になります。今後、新たな発展や取組の充実につながりますことを期待しています。

令和2年（2020年）6月5日 国立夜須高原青少年自然の家 ESD・SDGs プロジェクトチーム

*National Institution For Youth Education*  
*National Yasukoen Youth Outdoor Learning Center*

# YASUKOGEN

## SDGs project

**SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS**

「国立夜須高原青少年自然の家」は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

## 【夜須高原で体験できる活動プログラム①】



- オリエンテーリング
- フィールドビンゴ
- ウォークラリー
- フォトラリー
- 五玉神社の謎を解け！
- ひるもりビンゴ
- 夜須高原アドベンチャーウォーク
- ナイトハイキング
- 大根地山登山
- 秋月城下町ハイキング
- 夜須高原記念の森ハイキング
- キャンプファイヤー

※それぞれの活動プログラムの詳しい説明は、『活動資料集』をご覧ください。

本プログラムに該当する SDGs (目標とターゲット例)	
	<p>【目標 15】 陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る。</p> <p>15.1 2020 年までに、国際協定の下での義務に則って、森林、湿地、山地及び乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系及びそれらのサービスの保全、回復及び持続可能な利用を確保する。</p> <p>15.4 2030 年までに持続可能な開発に不可欠な便益をもたらす山地生態系の能力を強化するため、生物多様性を含む山地生態系の保全を確実にを行う。</p>



活動前に、自然の豊かさ（生物多様性）への気づきを促したり、活動後に生態系の保全について考えたりする機会を設けてみてはいかがでしょうか。

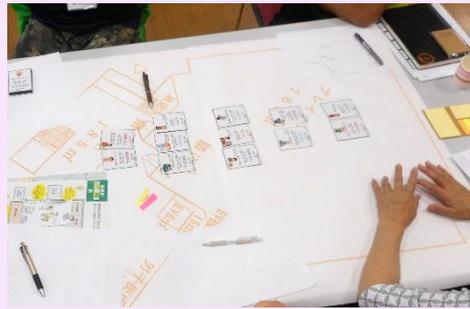
本プログラムに該当する SDGs (目標とターゲット例)	
	<p>【目標 12】 持続可能な消費と生産のパターンを確保する。</p> <p>12.4 2020 年までに、合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する。</p> <p>12.5 2030 年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。</p>

夜須高原の森では、ゴミが散乱しているところや不法投棄を見かけることもあります。活動後に、そうした姿に気づいたか、それは生態系にどのような影響を与えるのか、自分やグループは森の中でどのように心がけたか、あるいは今後は行動していきたいか等を話し合ってみてはいかがでしょうか。



## 【夜須高原で体験できる活動プログラム③】

※②は、全体版に掲載しています。



### ○HUG (ハグ) 避難所運営ゲーム

※福岡県の地域安全協会（一財）代表の山本一氏の監修により製作した夜須高原オリジナルプログラムです。利用ご希望の際は、事前にご相談ください。



学校で行っている「防災・減災教育」の一環として取り入れてみてはいかがでしょうか。ふりかえり等も含め、約2時間の活動です。多様な立場の人が待機する避難所の運営は、様々な配慮や対応能力が必要です。カードゲームをとおして、避難所運営だけにとどまらない多様性配慮の視点や行動力を育むことができます。

\*当施設は、筑前町の災害時における避難所に指定されており、本プログラムは教育事業等で活用されています。

### 本プログラムに該当する SDGs (目標とターゲット例)

<p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<p>【目標 13】 気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る。</p>
	<p>13.1 全ての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靱性（レジリエンス）及び適応の能力を強化する。</p> <p>13.3 気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。</p>

### 学習をとおして広がる SDGs (目標とターゲット例)

<p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>【目標 11】 都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする。</p>
	<p>11.3 2030年までに、包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、全ての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。</p> <p>11.7 2030年までに、女性、子供、高齢者及び障害者を含め、人々に安全で包摂的かつ利用が容易な緑地や公共スペースへの普遍的アクセスを提供する。</p>
<p>17 パートナシップで目標を達成しよう</p>	<p>【目標 17】 持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。</p>
	<p>17.16 全ての国々、特に開発途上国での持続可能な開発目標の達成を支援すべく、知識、専門的知見、技術及び資金源を動員、共有するマルチステークホルダー・パートナーシップによって補完しつつ、持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップを強化する。</p> <p>17.17 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。</p>

※「共助」を考える視点にもつながります。